

## 1. 応募の動機・理由を簡単にご記入ください。

平成20年公示の中学校学習指導要領では、我が国の郷土の伝統や文化を受け止め、それを継承・発展させるための教育の充実を図る事が求められている。そこで、家庭科の住領域において「畳」を取り上げ、住文化継承のための視点を育むための実践を行う。実際には日本の住宅内において和室の需要が低下しており、イ草農家も年々減少している現状がある。畳が日本の住宅には古くから存在していても、その理由や機能などについては知らない人も多い。歴史的な価値や機能性等について知らない、より今後は畳や和室空間は減少し畳産業も廃れていく事につながるだろう。

現行の中学校家庭科の教科書において「畳」に関する記述は和式や洋式の起居様式の違い、和室の作りなどが中心に記載されている。それに加え、畳がなぜ日本の住宅に取り入れられるようになったのかといった歴史的背景、また畳の持つ機能を科学的な視点から理解する事も必要ではないかと考えた。

本実践は教員養成課程を持つ大学と附属中学校との連携で行う。大学生が畳に関する情報（畳の歴史・構造・機能）に関する教材を作成し、それをを用いて中学校で授業実践を行う。大学生にとっては畳の理解とともに効果的な教材の作成の学びとし、中学生にとっては畳に関する確かな知識を獲得できる機会となるよう目指したい。

## 2. 学習予定の概要を（イ）（ロ）に触れながら以下のA. B. C. 3点について記入してください。

（イ）気づき（児童生徒に気づきをどう促すか）

（ロ）自ら調べ考える（児童生徒にどう考えさせるか）

.....

### A. 中心となる活動

- ① 畳の「歴史」、「構造」、「機能」、についてのe-learning教材を作成する。（大学生）
- ② e-learning教材を用いた授業を通し、畳への理解を深める。（中学生）
- ③ ②の中学生を対象とした授業実践の参観を通して、授業の分析を行う。（大学生）
- ④ 家庭内での畳の手入れや管理について、畳屋の協力のもと動画教材を作成する。（大学生）

### B. 授業の狙いと特徴（住生活向上の視点を含めてお書きください）

過去に中学生に実施した畳に関する調査（資料1）から、中学校家庭科における畳文化の授業内容への知見を踏まえ、以下を内容の理解を目指す。

#### ① 畳における基礎的な知識の理解

畳の日本の住宅内での歴史的な変遷、畳の構造と吸湿性・弾力性・耐久性の理由、畳の構造が日本の気候風土に適している理由などについてe-learning教材を用いて学習する。この教材は、一部作成済みである（資料2）。ジクソー法を用いた授業展開で知識の定着を目指す。

#### ② 実際に畳に触れる活動

現代の住宅では畳に触れる経験のない若者も一定数存在することから、実際に畳に触れる活動を取り入れる。畳表の異なるミニ畳（イグサ・和紙）、畳床の異なるもの（藁・スチレンボード・藁+スチレンボード）、様々な畳縁のもの、色畳、などについてそれぞれの手触り、踏み心地、重み、匂い等を体感する。

#### ③ 消費者として家や畳を適切に管理するための方法を学ぶ

畳を長持ちさせるための手入れや管理の方法について、資料や畳店へのインタビュー内容を活用した動画教材を作成する。

### C. 学習の流れ（指導計画）

#### ●スケジュール

大学と中学校との連携で実施するため、以下のスケジュールで実施する。

大学は住居学研究室に所属している学生、研究室が関係する授業を履修している学生を中心にプロジェクトを実施する。授業は附属中学校の家庭科教員の協力も仰ぎ、9月～10月に附属中学校2年生を対象に実践する。

大学	時期	中学校
e-learning 教材の準備	～9月	畳に関する事前アンケート
授業参観・分析	9月	第1時間目の授業実践
授業参観・分析	10月	第2時間目の授業実践
畳の手入れ・管理に関する資料収集 畳店へのインタビュー	11月	
畳の手入れ・管理に関する動画教材作成	12～1月	
動画の完成	2月	動画の視聴

#### ●授業計画（全2時間）

- 1) 「祖母と同居する事になった中学生 A さん一家において、祖母の部屋を和室の洋室のどちらにするかについて家族で検討することになった。」という課題について、自分なりの考えをまとめてもらう。考える材料として e-learning 教材を用い、畳（和室）と洋室についてグループごとに学習する。その後ジグソー法によりクラス内で共有する。（1時間目）
- 2) 様々な畳に実際に触れることで、家で畳を活用するイメージを掴んでもらう。  
最終的に1時間目に提示された課題について、自分の考えを発表する。（2時間目）

### 3. 授業とガイドライン「住教育の領域」との関りについてお書きください。

「人と住まい」に関連する内容である。畳を中心とした住まいの変遷の学ぶ事で、習慣や起居様式などの人と住まいの関係について考える機会としたい。また、文化的な価値の重要性を気づくことで、その住まい方を生かし守る工夫を考え実践できる力へとつなげたい。

#### その他特記事項がありましたらお書きください。

- ・畳の手入れ・管理についての内容について、今年度授業時間を確保する事が難しいため、動画を作成し、来年度以降授業内での活用を目指す。
- ・助成金については、畳店へのインタビュー等への謝礼、動画作成に必要なソフト等の購入に充てる予定である。

※ページが複数枚になってもかまいません。

※他に添付資料がありましたらお付けください。

## 中学生を対象とした畳に対する意識調査～住文化継承を目的として～

発表部門—ハウジング

畳 住文化 住教育

家庭科 中学生

正会員 ○ 佐桑 あずさ<sup>\*1</sup>

## 1. 研究の背景と目的

日本の住宅における和室は減少傾向にある。農林水産省の調査による、「い」の作付面積は平成7年度の5610haから平成13年度には約3分の1の1870haに減少し、平成28年度では643haまで下がっている。また同時に「い」の生産農家数と畳表の農家数も10年前の2分の1に減少している状況にある。伊藤ら<sup>1)</sup>の調査においても、東京都内の畳店の年々減少傾向にあることが明らかとなっている。このような状況を踏まえ、全日本畳産業振興会や、各県に組織されている畳組合などは畳の普及のため、様々な活動を展開している。小学生の畳制作体験教室や中学生向けの職場体験講座が一例に、消費者の畳離れを防ぐための商品開発なども積極的に行っている。

消費者側の現状を見ると、鮫島ら<sup>2)</sup>は1980年代には床の間を備えた和室を優先的に確保する傾向が強かったものが、1990年代後半～2000年初めにはLDK空間の面積水準が大幅に上昇し、和室設置の優先性が大幅に低下したことを明らかにしている。また1980年代には全国の8割を超える住宅に和室が設置されていたが、2007～2008年には、床の間を持たない和室が6割を占めるに至っているという報告がある。しかし一方で、置き畳などを利用したスペースを設ける住宅が増加していること、縁のない畳や半畳畳、形自体が変形している畳など、畳の形やサイズについても本来のものにとらわれないデザインが開発されていることもあり、住宅の洋風化に合わせて畳空間の形態が多様化している現状もある<sup>3)</sup>。

萩原<sup>4)</sup>は、消費者自身の畳に対する知識も不足している現状を明らかにしている。畳に関する「表替え」「裏替え」などの言葉を知らない人がほとんどであることや、住み手の知識不足が目立つとし、商品知識と維持管理の情報提供が必要であるとしている。

畳とは本来、日本の気候や生活に適した機能があり、また伝統的な歴史があるものの、時代の流れに伴い、日本の住まいの中における畳のあり方や消費者の意識は変わってきており、かつては住生活の要であったはずの畳が、今日では消費者の中で必要性が薄れつつある現状がよみとれる。

## 2. 畳文化継承の意義

## 2-1. 学習指導要領上の記述

平成20年公示の現行中学校学習指導要領では、教育の目標として(1)能力の伸長、創造性、職業との関連を重視(2)公共の精神、社会の形成に参画する態度(3)生命や自然の尊重、環境の保全(4)伝統と文化の尊重、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し、他国を尊重、国際社会の平和と発展に寄与、の項目が新たに規定されている。この目標に伴い(4)伝統と文化の尊重については、伝統や文化に関する教育の充実として、国際社会で活躍する人材の育成を図るため、我が国や郷土の伝統や文化について理解を深め、そのよさを継承・発展させるための教育を充実する旨が示されている。これからの社会を担っていく子どもたちに対して、学校では、日本の伝統や文化についての指導が求められている。

中学校家庭科においては、4領域の中でも特にB食生活と自立、C衣生活・住生活と自立の2領域で伝統・文化継承に関する題材が考えられ、B食生活の領域においては、地域の食材を生かした調理や日本各地の郷土料理、日本の行事食などについて、指導要領や教科書で取り上げられている。C衣生活・住生活の領域では、衣生活における和服や浴衣とその着装などについては多く取り上げられているが、住生活における日本の伝統や文化に関する記述は、指導要領、教科書共にそう多くはない。教科書内では「和室」に関する記述なども若干見受けられるが、衣や食の分野と比較するとその量は少ない。家庭科全体として見れば伝統や文化に関する内容については扱われているが、住分野においては日本の伝統的な文化であるはずの畳や和室をはじめ、扱われている内容は多いとは言えない。

## 2-2. 中学校家庭科における畳や和室の扱い

中学校家庭科の教科書を発行している主要3社における住文化の扱いを概観する。全社において、「畳」や「和室」に関する記述はみられるが、記述内容と畳に違いがみられた。畳の機能(吸湿性)についてはどの教科書でも紹介されている。A社では畳の機能に加え、日本の気候との関連についても記述があり、3社の中では最も記述量が多い。B社においては、畳と日本の生活文化を関連させた記述になっているが、畳が多くない。C社では、畳

とはどのようなものかについての説明や、和室に関する知識がクイズとして口絵部分で取り上げられている。またいずれの教科書においても、畳に関する記述は、住領域の導入部分ともいえる「住まいのはたらき」の中で取り上げられており、日本の住宅の特徴である畳や和室について知るには十分な内容だと考えられる。しかし、中学生が将来消費者となった場合に、和室空間を家の中に取り入れる動機につながる内容になっているかどうかという点や、先に述べた日本の伝統や文化としてみても、畳の歴史などについて詳しく記述されている教科書はないため、畳の扱われ方については検討の余地があると考えられる。

本研究では、住文化継承のために畳や和室についての内容を扱う中学校家庭科において、どのような授業内容や授業構成が望ましいかについて明らかにすることを目的としている。本稿では、その授業考案の基礎資料として中学生の畳に対する意識を把握する。

### 3. 調査概要

#### 3-1. 調査の項目

調査では、畳に関して大きく3つの項目で質問を構成した。1つ目は現在の住まいの状況や畳に対しての感じ方を問うもので、全6問を設置した。家族や住まいの形態、畳の部屋の有無、畳の部屋がある場合にはその使い方や好感度、畳の部屋がない場合には住まいの中にほしいと思うかという内容である。

2つ目は畳に対するイメージを問うもので、①畳に対する興味・印象 ②畳の歴史・文化 ③畳の機能性・効果 ④畳の管理・手入れの内容に分けて全31問を設置し、5段階（そう思う・ややそう思う・どちらでもない・あまりそう思わない・そう思わない）で回答してもらった。

3つ目は将来どのような住まいに住みたいかについて問うもので、大問を2問、小問を20問設置した。大問1では住まいの形態（戸建・集合）や和洋の好みについて、大問2では住まいを選ぶ際に重視する点について3つ（①立地 ②住宅・室内 ③地域）の内容に分けて、それぞれ質問を設置している。なお、大問2については3段階（重視する・どちらでもない・重視しない）での回答とした。

#### 3-2. 調査の方法

神奈川県内のT中学校の3年生5クラス、全181名を対象に平成29年9月に家庭科教諭の協力のもと調査票を直接配布、回収した。その後9月と11月に畳に関する授業実践を2時間行い、その後同様の畳に対するイメージに関する

調査を再度実施した。

### 4. 調査結果

#### 4-1. 調査対象の属性

T中学校3年生の181名の内訳は男子95名（52%）、女子86名（48%）であった。また、平均の世帯人数は1世帯につき4.5人であり、住まいの形態については戸建住宅が83名（46%）、集合住宅が94名（52%）となっている。また、住まいが持ち家や分譲である者が89名（49%）で、全体の半数を占めていた。

#### 4-2. 自宅内の畳空間について

畳の部屋や畳を使った場所が「ある」と答えた者は138名（76%）、「ない」と答えた者は43名（24%）であった。住まいの中に「畳がある」と答えた138名のうち、部屋の数が「1部屋」は127名（92%）、次いで「2部屋」が8名（6%）、「3部屋」が3名（2%）であった。広さは、「6畳」が最も多く44名（29%）、次いで「8畳」が25名（18%）となった。このことから、回答者の住まいには、6畳または8畳の畳空間が1部屋置かれていることが分かった。

使い方に関しては、「寝室」の割合が最も高く98名（54%）となっている。「団らん」や「食事」としての利用、「その他」の中では「個人の部屋」（7回答）や「楽器演奏用の部屋」（2回答）としての利用という意見も見られたことから、畳空間特有の多目的利用を活用している世帯が一定数存在していることが分かった。一方で、「物置」としての利用や「使っていない」という回答もあり、畳の空間を日常的には使用しない空間として設置している世帯が存在していることも明らかになった。

また、利用している者は「家族全員」での利用が最も多く、「個人」と回答した者も含めると90%近くに上ることから、畳の空間を家族の空間として利用している世帯が多いことが伺える。一方で「来客」と回答した者は10%程度に留まることや、使い方の中でも「接客」は最も少ない割合であることから、畳の空間は接客の場としてはほとんど利用されていないことが読み取れた。この結果は既往研究とも一致しており、畳空間の接客機能の大幅な消失という現状は、今回の調査からも示唆される。

表1 畳を持つ住まいの実態

部屋数	1部屋		2部屋		3部屋				
	127名 (92%)		8名 (6%)		3名 (2%)				
広さ	4畳以下	6畳	7畳	8畳	9畳以上	不明			
	9名 (6%)	44名 (32%)	9名 (6%)	25名 (16%)	29名 (19%)	36名 (24%)			
利用者	個人		家族		来客		その他		未回答
	31名 (20%)		102名 (65%)		15名 (9%)		3名 (2%)		6名 (4%)
使い方	寝室	物置	その他	団らん	食事	接客	不使用	未回答	
	98名 (54%)	29名 (16%)	20名 (11%)	11名 (6%)	7名 (4%)	5名 (3%)	5名 (3%)	5名 (3%)	

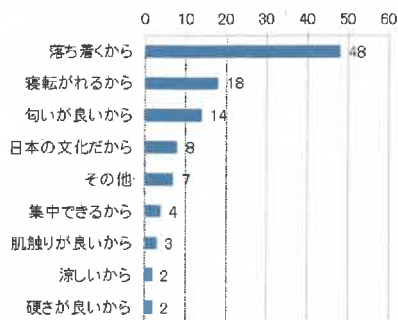


図1 畳を好きな理由

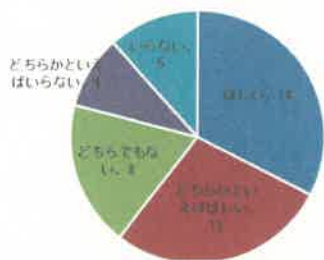


図2 畳の部屋が欲しいか(n=43)

表2 畳を必要としない理由

理由	回答数
あってもなくても変わらない	5
今の部屋で十分	2
フローリングが良い	2
畳以外の空間を広くしたい	2
手入れが難しい	2
その他	2

住まいの中の畳空間に対する5段階(とても好き・好き・どちらでもない・嫌い・とても嫌い)での回答からは、62%の中学生(86名)が「とても好き」「好き」と答えたこと、また「嫌い」「とても嫌い」と答えた中学生はいなかった。

「とても好き」「好き」と回答した中学生のうち、その理由として「落ち着くから」を挙げた者が最も多く(48回答)、他にも「寝転がれるのが好き・良い」(18回答)や「匂いが良い」(14回答)という意見が挙げられ、畳の構造や匂いなどの特性を良さとして感じている中学生が多くいることが分かった。また、「日本の文化や歴史を感じられる」(8回答)という意見もあり、日本の伝統として畳を捉えている中学生も見られた。一方で、「どちらでもない」と答えた中学生は50名(36%)で、理由としては「自分は使っていないから」と答えた者が半数近くに上っている(21回答)。また、次いで多かったのは「畳に興味がない・気にしたことがない」(12回答)という意見であり、畳について関心を持たない中学生も若干見受けられることが分かった。住まいの中に畳がないと答えた43名には、住まいの中に畳の部屋や場所がほしいと思うかを質問した。5段階(ほしい・どちらかといえばほしい・どちらでもない・どちらかといえばほしくない・ほしくない)での回答からは、「ほしい」「どちらかといえばほしい」と答えた中学生が26名(60%)で半数を上回っており、現在の住まいに畳空間がなくても、畳に対して好感を持っていることが考えられる。その理由としては、「落ち着くから」を挙げた者が最も多く(12回答)、他にも「寝転がれるのが良い」(3回答)、「日本の文化だから」(3回答)という意見が挙げられた。

一方「どちらでもない」「どちらかといえばほしくない」「ほしくない」と答えた中学生は17名(40%)だった。理由として「今の部屋で十分」(5回答)「フローリングが良い」「他の空間を広くしたい」「手入れが難しい」(それぞれ2回答)や「畳の目に爪が挟まるのが不快」(その他・1回答)という意見もあり、畳自体に好感を持っていない中学生も若干見受けられることが分かった。

#### 4-3. 畳の印象

住まいの中での畳の有無に関わらず、中学生が抱いている畳に対するイメージについての結果を考察する。ここでは4つの内容(①興味・印象 ②歴史・文化 ③機能性・効果 ④管理・手入れ)についてそれぞれ質問を設置し、5段階(そう思う・ややそう思う・どちらでもない・あまりそう思わない・そう思わない)での回答とした。傾向をより把握しやすくするため、「そう思う」、「ややそう思う」を「そう思う」群、「どちらでもない」、「あまりそう思わない」、「そう思わない」を「思わない」群としてまとめ、集計した。

畳の興味・印象については、畳の匂いや触感、興味や好感などに関する14問(①から⑭)を設置した。畳の「におい」や「触り心地」については良いと感じている中学生が7割、「畳の空間は落ち着く」については8割を超えており、好印象の中学生が多いことが分かる。また、「畳を身近に感じられる」中学生が多数いることが伺える。

その一方で、「洋室よりも和室の方が好きだ」と感じている中学生は3割程度に留まっていることや、「将来は畳の空間がある住まいに住みたい」と考えている中学生は約半数であることから、住まいの中での畳空間という観点では畳自体の好印象が薄くなりやすいと考えられる。また、多くの中学生は畳が「古くさい」とは感じていない(92名)ものの、「畳について興味がある」(28名)、「畳を床に敷く以外の使い方をしてみたい」(26名)と、思っている中学生は共に1割程度であり、畳に対して新たな知識を得たり、新しい形で取り入れたりすることには消極的である傾向が伺える。

中学生の中には畳自体と自分自身の住生活における畳との間で興味や印象についての差異が生じていると考えられ、畳に対しての印象は良いものの「畳は魅力的だ」と感じる中学生が83名(46%)と半数を下回る結果になったのは、こういった中学生の中での差異が原因の一つになっているのではないかと考えられる。また、14問の中で、性別と各問との関連を見るためにカイ二乗検定を行ったところ、「畳は健康に良い」、「畳を床に敷く以外の使い方をしてみたい」の2問について有意差が見られた。現在の住まいの中での畳の有無との関連では、「畳は身近に

感じられる」、「将来は畳の空間がある住まいに住みたい」の2問で有意差が見られた。

畳の歴史・文化については、畳の文化伝承などに関する6問(⑮から⑳)を設置した。畳の歴史として、昔は高級品として使用されていたが、現代では広く一般的な住まいにも定着しており、中学生自身も身近に感じていることから、「畳のある家は格式が高い」と考える中学生は44名(24%)に留まっていると考えられる。

また、「畳は日本を代表する文化の1つである」(159名)「畳の文化は今後も残していく必要がある」(153名)と考えている中学生は共に8割を超えており、畳は日本の伝統的な文化であるという考えが根強いことが分かる。一方で、「畳の歴史や文化を知りたい」と思う中学生が2割程度にしか及ばなかった。また、性別によるカイ二乗検定では「日本以外の国にも畳を使ってほしい」、「畳を

海外にも伝えたい」、「畳の歴史や文化を知りたい」の3問で有意差が見られた。畳の有無との関連では「畳の文化は今後も残していく必要がある」において有意差が見られた。

畳の機能性・効果については、畳の特徴的な効果である抗菌、調湿、吸音などに関する5問(㉑から㉕)を設置した。効果については3問全てで「そう思う」が半数を下回っており、現状として畳の効果に関する確実な知識を持っていない中学生が多いことが分かる。また、「畳の機能性や効果を知りたい」と考えている中学生は77名(43%)であった。

畳の管理・手入れについては、畳の適切な管理、手入れの方法などに関する6問(㉖から㉚)を設置した。「水拭きが適している」、「カーペットを敷いても問題ない」については「そう思わない」の回答がいずれも70名(39%)であること、「定期的な点検が必要である」についても「そう思う」の回答が半数を下回っていることから、機能性・効果と同様に確実な知識を持っている中学生はそう多くないことが伺える。また、「畳の手入れは難しい」と感じている中学生が86名(48%)と半数近くまで上っており、手入れに対して消極的な印象を持っている中学生が一定数存在していることが分かった。なお、「畳の正しい管理や手入れの方法を知りたい」と思っている中学生は73名(40%)であった。

### 5. まとめ

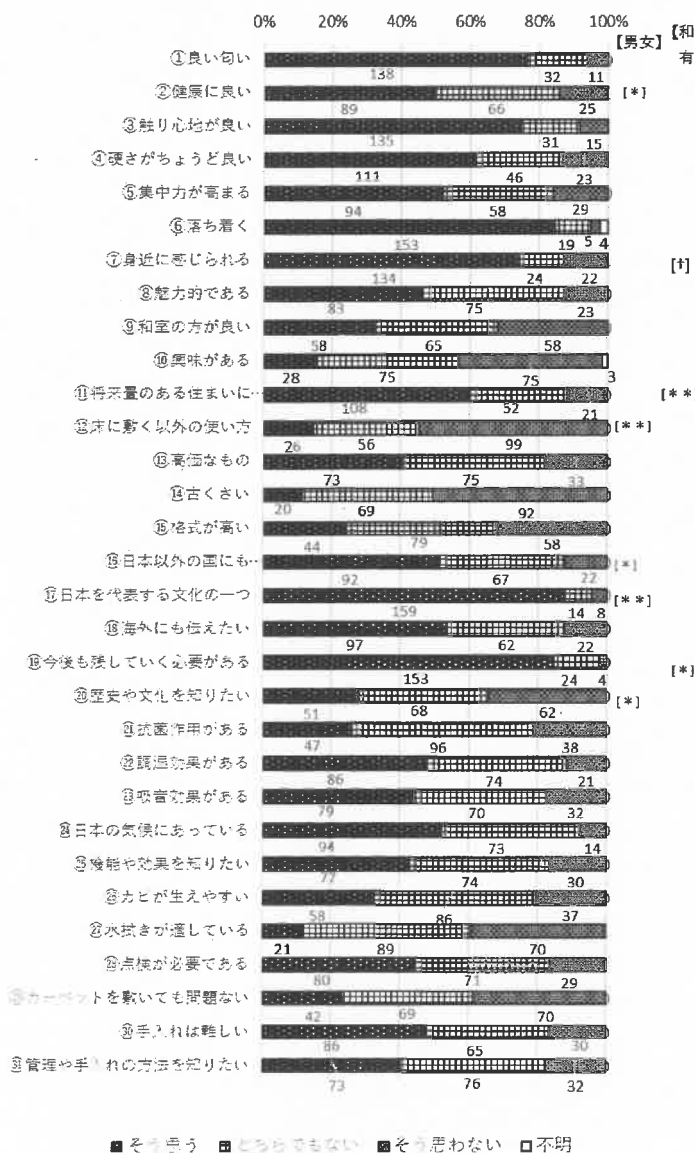
今回の調査では、中学生は畳の歴史・文化面、機能性については高い評価をしていることがうかがえた。一方で、管理や手入れの必要性や知識については、曖昧な面も見られた。畳の歴史だけではなく、自分自身の住まいに取り入れ、管理していく確かな知識を持つ事が畳の継承や住文化を継承していく事につながると考える。

今後は授業実践を通して、その効果について検証していく必要がある。

【謝辞】本研究は、平成29年度横浜国立大学卒業生の中村高子氏の卒業研究データを活用したことをここに記し、ここに謝意を示します。

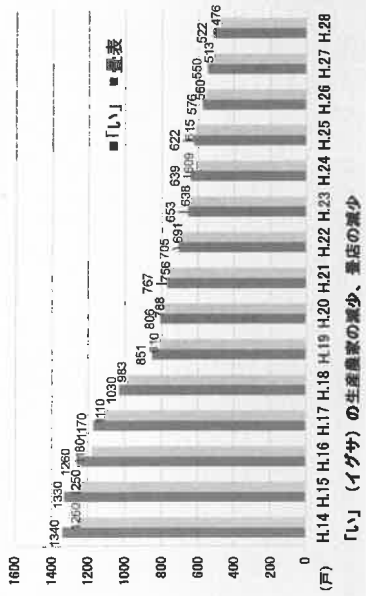
- 1) 伊藤恒輝・深尾精一・門脇耕三：畳店の業務形態及び地域特性に関する東京都内を対象とした調査, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 955-956 (2011)
- 2) 鮫島慶多・湯浅裕樹・鈴木義弘・岡俊江・切原舞子：現代住宅における平面構成の変容に関する研究, 第3報 面積水準を指標とした座敷とLDK空間確保の関係とその変容, 日本建築学会九州支部研究報告第50号, 245-248 (2011)
- 3) 今井範子・伊東理恵：現代性をとり入れた畳空間デザイン—畳空間の構成要素別にみた— その2 住様式からみた畳空間デザインの動向に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 51-52 (2000)
- 4) 萩原美智子：住宅の維持管理と消費者の知識 住宅情報誌にみる和室の変化と学生の畳知識と使用方, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 1483-1484 (2005)

畳への興味・印象 (n=181)

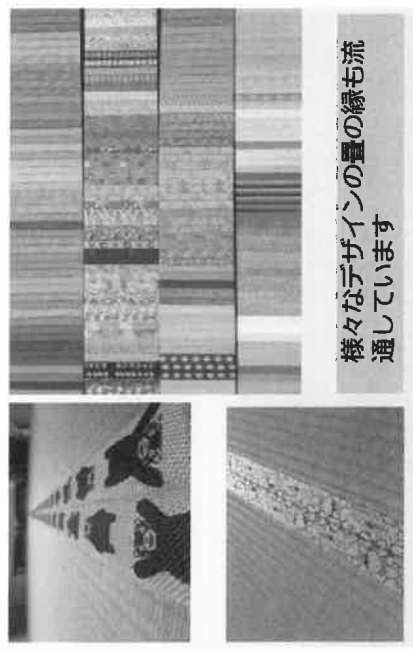


畳産業の実態

主産県（熊本県）における「い」生産農家数及び畳表生産農家数の推移  
 (農林水産省統計資料「作物統計」)



新しい取り組み



様々なデザイン畳の縁も流通しています

畳の部屋って、  
 なんだから落ちつかない？

畳の吸音効果

低周波（機械等による振動）での効果は高く、高周波（話し等々）では期待薄

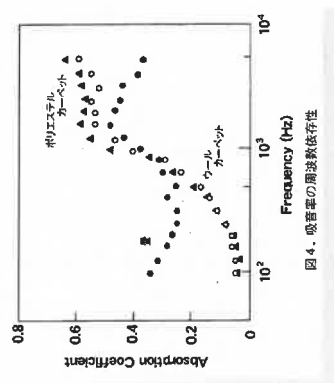


図4. 吸音率の周波数依存性

畳文化継承の意義

教科書における「畳」「和室」に関する記述

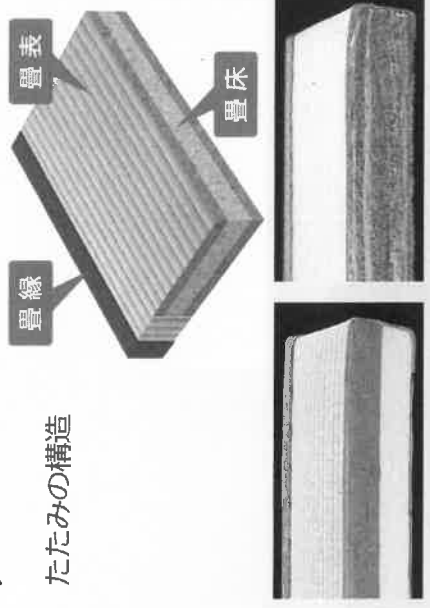
B社



- ・部屋を時や場合に応じてさまざまな目的に使える
- ・長い時間の正座やあぐらなどは、足腰に負担がかかることがある
- ・たたみの吸湿性や弾力性が、薬足の生活に合う

起居様式・住生活の様式  
 いす座とゆか座の生活の  
 の違い

和式と洋式の住まい方



たたみの構造

スチレンフォーム+ボード

畳の床

イグサの香り成分 (熊本産の例)

- フイトンチッド・・・20%
- α-シペロン・・・6%
- バニリン・・・20%
- ジビドロアクチンジオリド・・・10%
- その他・・・58%

ジビドロアクチンジオリド  
 紅茶に含まれている芳香成分と同じもので、他の芳香成分と異なる香り成分を含有する。他の植物の茎葉および生長を阻害する作用を有しています。

バニリン  
 バニリンやシペロンやα-シペロンの抽出。芳香剤の原料としてなど、様々な製品に用いられている芳香成分。リッパス効果をおよぼすとされています。

たたみの歴史

江戸時代



当時は家を引っ越す時は畳も持っていった

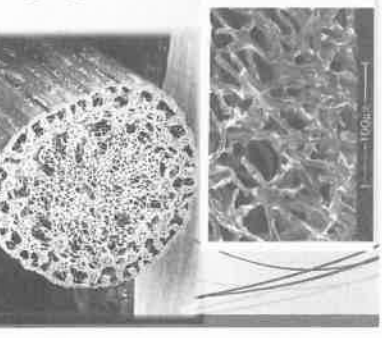
畳奉行

江戸政府の役職の一つ。江戸城内の座敷や役所の畳を管理し、畳づくりや畳替えの役目を受け持つ



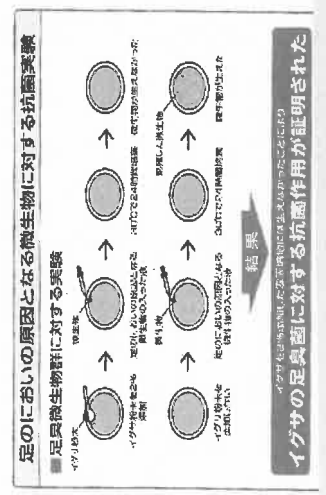
畳職人  
 庶民の生活にも畳が取り入れられるようになり、畳職人という職業も確立

畳の原材料「イグサ」の  
 スポンジ構造とは？



- 外側は丈夫
- 内側は穴がたくさん

イグサの抗菌作用



- ・足のにおいの原因となる微生物の生育を抑える  
 ⇒室内で靴を脱ぐ日本に適している